

2015年11月22(日) 千里キリスト教会 讃美礼拝説教

聖書箇所 マルコ 05 : 25～34

説教主題 「イエスの着物に触れた女性」

説教者 徳本 篤 師

序 論) 作業現場で 200 ボルトの電源に素手で触って感電した体験の記憶。

全身に強い衝撃が走り反射的に全身の筋肉が伸びきった状態だった。もし、ヘルメットを着けていなかったら大きな事故になっていたかもしれない。

本 論)

今日の聖書の箇所ではイエスの着物に素手で触った女性の話があります。この当時は「長血」と呼ばれていた女性特有の病にかかって苦しんでいました。それは 12 年間も続き、治療費のために彼女も彼女の家族も持ち物をみな使い果たしてしまいました。そのような時イエスが近くに来られるという噂を聞きました。このお方がユダヤの各地でどのようなことを教え、どのような働きをなさっていたかを聞いて、彼女は多めに期待してその場所に出かけました。するとイエスの周りにはすでに大勢の人々が取り囲んでいました。

とても自分の相談をイエスに聞いていただくことは望めない状態でした。しかし、イエスにすぎる機会はこの時しかないと思った彼女は、そこで思い切った行動にでました。群衆の中に紛れ込んで、後ろから、イエスの着物に素手で触ったのです。

するとその瞬間に彼女の病が元通りに直ったのです。しかし、イエスは誰かに自分の力が出て行ったことを感じられ、それが誰であるかを知らうとあたりを見回されました。

病をいやされた女性は自分が人に知れることなくそっといやされることを願っていましたが、まさかこのような大きなことになるとは考えていませんでした。イエスがしきりに探しておられる様子を見て、恐ろしくなり、着物にさわったのは自分だと名乗り、一部始終を打ち明けました。

するとイエスは、「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」と優しく励ましてくださったのです。

洞 察)

マルコ 5 章 27 節では、イエスの着物にさわったことが彼女の信仰をあらわしているように書かれていますが、その意味をさらに深く探るためにこれとよく似ている マルコ 1 章 40 節～42 節と比較してみましょう。

「40 さて、ひとりのらい病人が、イエスのみもとにお願いに来て、ひざまずいて言った。『お心一つで、私はきよくしていただけます。』 41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして、彼にさわって言われた。『わたしの心だ。きよくなれ。』 42 すると、すぐに、そのらい病が消えて、その人はきよくなった。」と書かれています。

マルコ 1 章ではイエスの方から男性にさわってくださったが、マルコ 5 章では女性の方からイエスにさわったことが書かれています。その違いはあっても、どちらも触れることと信仰とが一对であるように書かれています。触れることにどんな意味があるのでしょうか。

1 聖書は聖なるものに触ることに、われらをきよめる力があることを保証します。

出エジプト 30 章 29 節に、「聖なる油を注がれてきよめられたものは、最も聖なるものとなる。これに触れるものもすべて聖なるものとなる。」と書かれています。キリスト（油注がれた者という意味）は私たちの疲れた心とたましいをいやし、きよめてくださるお方であることを預言している個所です。

2 触ることは愛情と信頼をあらわします。

もし知らない者や敵対する者にいきなり触られると恐怖を感じます。相手によっては怒りの感情を爆発させます。しかし、信頼する者、親しい者に触れると深い愛情と安心を感じます。母マリヤに抱かれ安らかに眠っておられる幼児イエスの姿に、多くの人が安らぎを感じるのはそのためではないでしょうか。

3 触れることはどちらかが相手に近づくことをあらわします。

聖書には、「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。」（ヤコブ 04 : 08）という約束のことばがあります。

応 答)

きょう、もし、心の中で、わたしも勇気をもってイエスに近づき、手を伸ばしてイエスに触れたいという願いと決意を持つ人がいたなら、それがあなたの信仰です。イエスはあなたの心をきよくし、傷をいやし、あなたの親しいお方となってあなたを守ることができます。あなたはこのことを信じますか。